

(様式2)

令和2年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
47	長沢中学校	栗山 八寿子

学校教育目標	学校経営の目標	今年度の重点目標
1. 自分を見つめよう 2. 心身を鍛えよう 3. 規律を守り、責任を果たそう 4. 創造的な精神をみがこう	今年度は次の4点を重点として、学校教育目標の達成に向けて全教職員で取り組む。 I 確かな学力が身につく学習活動の推進 II 安全で安心できる学校づくりの推進 III 豊かな心づくりの推進 IV 地域・保護者との連携推進・学習環境の整備	学校経営目標の達成に向けて次の重点目標に取り組む。 I-1 学習規律の確立 2 教師の授業力向上 3 読書体験の充実 II-1 支援教育の推進 2 教育相談の充実 3 居場所となる学級・学校づくりの推進 III-1 キャリア在り方生き方教育の推進 2 共生* 共育プログラムの活用 3 いじめを許さない心の育成と体制の構築 IV-1 地域・保護者と共に取り組む教育活動の推進 2 教育環境の整備 3 健康・安全教育の推進

評価項目	具体的な取組	実現状況及び課題	具体的な改善策	
I 確かな学力が身につく学習活動の推進	1 学習規律の確立	①発表・聞く態度・意見交換などのルールをすべての学級で徹底し、学びの環境を整える。 ・研究授業 ・委員会活動の活性化 ・教科部会や学年会での情報交換	◎学校評価アンケートから、授業の内容を理解し、知識や技能を身につけていると感じている生徒が多い。 ◎学校評価アンケートから、学校生活の必要なルールやマナーを守って生活している生徒が多い。 ●取り組みの差(個人・学年) ●研修時間の確保	・教科部会や学年会で共通のルールや指導の在り方について確認する。全教職員で共通指導→生徒会活動として改善に取り組ませる。 ・見通しが持てて、具体的でわかりやすい授業を全教員で実施する。 ・生徒主体の考えさせる授業の実施し評価を指導の工夫改善に生かす。
	2 教師の授業力の向上	②教師は「主体的で対話的な深い学び」を視点とした指導方法の工夫改善に努める。 ・研究授業 ・初任研 ・教科部会での検討 ・管理職の指導助言 ・グループ学習やペア学習の実施(フィジカルディスタンスの確保)	◎学校評価アンケートから、「授業が楽しい」「授業が面白い」と感じている生徒が多い。 ◎生徒が主体的に考えさせる授業を行い、話し合ったり意見を発表したりする場面を設定している。 ●研修時間の確保 ●個別のニーズへの対応 ●話し合いの減少	・授業を相互に見合うミニ校内研修を進める。 ・新学習指導要領の趣旨を理解し、評価と指導の一体化に向けた取組を全教員で行う。 ・一人一台端末を活用した指導の工夫に全教員で取り組む。
	3 読書体験の充実	③ICT機器の効果的な活用や授業のUDL化を図り、わかりやすい環境づくりを進めると共に読書体験を促進する。 ・図書室の整備 ・デジタル教科書等の活用 ・蔵書の充実 ・PCを活用した調べ学習	◎学校評価アンケートから、丁寧でわかりやすい授業を行っている教員が多い。 ◎PCを使ったり、音声教材や映像を使ったりしてUDL化に取り組んだ。 ◎学校評価アンケートから、読書する生徒が増えた。(休業中貸し出し) ●図書室の蔵書 ●ICT機器の知識・スキルと研修	・図書委員の活動を支援し、生徒のアイデアや働きかけで読書をする生徒を増やす取組を促進する。 ・ステイホームの時間に本と出会い、読書を楽しむ体験を積ませる。蔵書の充実を図る。 ・GIGAスクール構想の実施に向けた研修時間を確保する。
II 安全で安心できる学校づくりの推進	1 支援教育の推進	①生徒一人ひとりの特性を射把握し、その子に応じた方法で発達を支援する。 ・学習室の設置 ・外部機関との連携 ・休業中の課題 ・ケース会議の充実 ・朝学習の時間	◎学校評価アンケートから先生や友達に助けってもらったり、助けたりできる生徒が多い。 ◎学習室の目的を共有し、保護者・本人の理解を促し、必要な生徒の支援につなげた。 ●学習室の担当者間の情報共有 ●利用者の増加 ●ケース会議	・学習室担当者会を行い、情報共有を図る。指導の記録を元に、状況の変化等に適切に対応できるようにする。 ・支援会議の充実を図り、情報共有と適切な支援を迅速に行う。 ・コロナ禍のある生徒・保護者の不安に寄り添った相談と必要な支援を実施する。
	2 教育相談の充実	②本人・保護者の思いに寄り添う教育相談を推進し、信頼関係を構築し、課題の未然防止と早期改善に努める。 ・教育相談期間の設定(年2回) ・相談内容の共有化と迅速な対応 ・学校生活アンケートの実施と分析と保管	◎学校評価アンケートから、先生や困ったときに先生に相談する生徒の割合が向上した。 ◎生徒や保護者の話を傾聴。思いを理解し共感する相談を実施している。 ●学校評価アンケートから、保護者の相談の満足度が低い。 ●相談できずにいる生徒や保護者への対応 ●教職員の言葉遣い	・いつでも誰でも生徒や保護者の相談を受け、丁寧に対応することは本校の経営の柱であることを徹底する。 ・相談してよかったと思えるよう、改善に向けて情報を共有し学校として迅速に対応する。 ・研修を実施し相談スキルの向上を目指す。
	3 居場所となる学級および学校づくりの推進	③すべての生徒の個性が尊重され、互いに認め合い助け合える学級づくりを行う。 ・授業公開 ・傾聴して一緒に考える指導 ・研修会 ・共生と協働の理念を学級基盤に ・学習室の設置	◎学校評価アンケートから学校生活は楽しく充実していると考えられる生徒の割合が高い。 ◎学校評価アンケートからクラスの活動にも行事にも意欲的に取り組んでいる生徒が多い。 ●学級で話し合い ●丁寧な相談を行う時間の確保	・全教職員が生徒一人ひとりに達成感を持たせるよう、その主体的な活動を支えることを再確認する。 ・集団の中で役割を持たせてやりがいを持たせる指導の実施 ・生徒同士が関わって活動する場面を意識的に設定する。 ・全ての生徒にとって必要な支援を、速やかに実施する。

Ⅲ 豊かな心づくりの推進	1	キャリア在り方生き方教育の推進	①キャリア在り方生き方教育の着実な実施と体験的な活動を通じ社会的自立に向け、必要な能力と態度を育成する。 ・キャリアの視点での授業 ・SDG'sの校内周知 ・進路説明会(オンライン) ・進路学習 ・キャリア在り方生き方ノート(パスポート)の活用	◎学校評価アンケートから、社会の中で自立するのに必要な力を身につけるよう意識している生徒が多い。 ◎学校評価アンケートから、気持ちの良いあいさつを心がけている生徒が多い。 ●SDG'sを取り入れた指導 ●職場体験(講話)の代替案の検討 ●長期的な視点に立ったキャリア教育の継続性 ●保護者との協働	・教育活動全般でキャリア生き方生き方教育の視点を持ち意識して取り組む。(SDG'sの周知と指導への汎用) ・進路決選択に向け、各学年ごとのキャリア教育のねらいを定めて、一貫した指導を行う。 ・キャリアノートをツールとして、保護者と共通理解のもと指導を行う。
	2	共生*共育プログラムの活用	②効果測定を実施し、生徒の変容を的確に捉え、学級経営の改善を図ると共に共感的な人間関係の構築を目指す。 ・効果測定・QUの実施(研究協力校) ・共生*共育プログラム研修 ・学年会での共有とケース検討	◎学校評価アンケートから、学校生活の中で友達とより良い関係を作ろうとしている生徒が多い。 ◎教員アンケートから、全学年で効果測定の結果を生徒理解に生かし、学級や学年経営の改善に努めている。 ●ケース検討の時間の確保 ●外部講師による研修の実施	・効果測定の分析や共生*共育プログラムの実施後の効果について協議する時間を確保する。 ・年6時間の共生*共育プログラム実施計画を策定し、必要なスキルを着実に伸ばす指導を行う。 ・外部講師による研修を実施し、効果測定の読み取りや活かし方を学ぶ。(ケース検討への助言も検討)
	3	いじめを許さない心の育成と体制の構築	③生徒の実態把握に努め、自己肯定感を高める関わりをするとともに変化を見逃さない丁寧な関わりを行う。 ・教育相談期間の設定 ・休業中の登校時面談やアンケート ・Zoom面談 ・相談内容の共有と迅速な対応 ・コロナ差別防止授業	◎学校評価アンケートから、悪口を言ったりいじめをせず、友達の良いところを認めることができる生徒の割合が高い。 ◎学校生活アンケートから、先生に自分では理解され、自信をもって活動に取り組めると考える生徒が多い。 ●いじめや不登校への対応のさらなる充実 ●丁寧に関わる時間の確保 ●コロナ禍にある生徒の支援(本人・家庭)	・学校生活アンケートや教育相談等の機会をもとりに日常から、生徒の変化を察知し、学校として迅速に対応する。 ・個人で判断せず、必ず報告してチームで考え対応することを徹底する。 ・記録をとること(フォーマットを作り正確に)と経過を追うことを指導の基本とする。 ・コロナによる本人・保護者の困り感に対し関係機関と連携して支える。
Ⅳ 地域・保護者との連携	1	地域・保護者と共に取り組む教育活動の推進	①積極的に学校の取組を発信し、家庭・地域・小学校等との連携を促進することで、一体化して継続性のある教育活動を展開する。 ・学校便り・学級だより・ホームページ・メール配信 ・ためぎチャンネル・地域教育会議・ZoomやYouTubeでの配信 ・小中連携・学校教育推進会議・PTA運営会議	◎学校評価アンケートから、挨拶を交わす等日常的に地域の人とつながっている考える生徒が多い。 ◎学校評価アンケートから、お便りやHP等で学校からの連絡等必要な情報を知ることができると考えている生徒が多い。 ●学校評価アンケートから、地域との連携が十分できていると考える教職員の割合と保護者の割合が共に6割程 ●オンラインでの情報配信	・学校と保護者、地域が協働して子どもを支えることの主旨に基づき、全教職員が日頃から良好な関係づくりに努める。 ・情報を確実に届けるためメール配信の在り方を検討する。 ・休日や時間外の地域行事や会議への参加については、働き方改革の視点から調整する必要がある。
	2	教育環境の整備	②生徒の安全を保障するため、防犯や経年劣化に伴う不具合等の早期改善に努める。 ・学校巡回による破損個所の把握と早期修繕 ・所管課との連携 ・計画的な改修(R4着工:体育館)	◎学校評価アンケートから、学校が安全で心地よい環境づくりに向けて努力していると考えられる生徒と保護者が多い。 ◎学校評価アンケートから、トイレがきれいになって喜ぶ生徒が多い。 ●調理室と理科室のエアコン設置 ●技能教科の道具等の劣化への対応 ●情報機器(PC・TV・校内映像配信等)の不具合への対応	・体育館は避難所でもあることから、所管課と連携してより安全で快適な環境整備に努める。(PTAから冷風機寄贈) ・点検巡回を丁寧に行い、教室等の不具合について迅速に対応し、校舎内外の安全と学びやすい環境づくりに努める。
	3	健康・安全教育の推進	③健康で安全に生活するために『新しい生活様式』の定着に努める。学校が安定的に教育活動に専念できる環境を整える。 ・新しい生活様式の定着・教職員による消毒 ・心肺蘇生等研修・性にかかわる講演会・活動方針に沿った部活動の運営・行事や会議等の計画の見直し・避難訓練	◎学校評価アンケートから、毎日の検温、手洗いやうがいを行うなど『新しい生活様式』を実行している生徒が多い。 ◎学校評価アンケートから、部活動に安心して参加できて熱心に取り組んでいる生徒が多い。 ●作業や運動中の安全指導の徹底 ●SNSに関わる問題の未然防止	・SNSに関する最新の情報を教職員・保護者・地域の大人が知る機会を作る。 ・コロナによる休業等による運動不足や道具の扱いに不慣れな生徒にも安全に活動ができるよう実態に即した、指導計画と声かけを行う。 ・避難所運営に関するルールやマニュアルを再点検し、非常時に適切に行動できるよう備える。

学校関係者の評価	今年度のまとめ・次年度へ向けて
<p><b>【良い点】</b> ◎教職員による毎日の消毒の徹底によって生徒も保護者も安心できる。◎PTAとの連携協力が図れた。(アルコールの購入や消毒作業)◎子ども文化センターとの連携(子どもの居場所としての活用)◎コロナ禍で保護者の参観は制限されたが、練習を見せてもらったり、DVD視聴会があったりした。◎飛翔祭はTV中継された。◎自然教室や校外学習の中止は残念だったが、代替の学年行事が充実して楽しく参加できた。◎コロナの感染拡大の中、ジャージ登校が可になった。◎コロナ禍だが学校教育推進会議が2回開催され、広く意見聴取を行った。◎修学旅行が実施され、タクシー移動など安全に配慮してもらった。</p> <p><b>【改善を要する点】</b> ●消毒が教職員の教師の負担になっているのではないかと。PTAが協力ができればよい。●職場体験や職業講話の中止に伴う代替案の実施●体育館のトイレの整備●ためぎフェスティバル(地域教育会議主催)が中止になり、先生やPTAと地域が顔を合わせる機会が減って寂しい。●中学生と会う機会がない。(互いに外に出ないから)●高校見学がなくなり、進路の情報収集が困難だった。</p>	<p>今年度は、コロナ感染拡大により、2か月にわたる休校を余儀なくされて以来、現在に至るまで生徒や保護者、教職員の安全と安心を第一に学校を運営してきた。文科や市教委発出の指針を周知徹底し、感染対策を行った上で学力の補償と豊かな心の育成に教職員全員で取り組んできた。一人ひとりを大切にする「支援教育」を核とした学校経営のもと、多様な教育的ニーズに加え、コロナを要因とする不適応にも支援を迅速に行っている。オンラインによる指導や情報発信にも取り組んだ。アンケートを分析して取組みの成果と課題を認識し、次年度は次の取組を着実に進めていく。</p> <p>■一人ひとりを大切にする学校づくり＝支援教育の推進 ・支援会議の充実 ・学習室の効果的な運営(個別の指導計画)</p> <p>■安全で安心できる学校づくりの推進 ・共生*共育プログラムの活用の充実 ・生徒、保護者の思いに寄り添う教育相談の充実</p> <p>■豊かな学力が身につく学習活動の推進 ・新学習指導要領の目的達成に向けたGIGAスクール構想(一人一台端末)の効果的な活用。</p>